

情熱の火を燃やし続けるために

大阪教育サークルはやし 宮本哲

「継続は力なり」

この数年、団塊の世代の先生方が退職されていきました。それに伴い、新卒の先生や他職を経験されて先生になれる方がたくさん入ってこられるようになりました。

その方々は、教師になるために教育系の大学で学び、免許を取得し、採用試験に合格して来られています。だから、教師という職業に夢と希望を持っています。

四月、何をするにも初めてのことです戸惑いますが、一生懸命、取り組んでいます。子どもへの接し方、授業の進め方、保護者の対応など教えたしつらきりがなくいろいろな経験をします。

それを一つ一つ乗り越えていくために、夜遅くまで残って教材研究をしたり、休みの日も出勤し、次の週の授業の準備をする姿をよく見かけました。休み時間は、子ど

もたちと運動場で鬼ごっこやドッジボールなどをして、ともに汗を流して楽しんでいました。そういつたことが、少しずつ積み重なり、ある程度、授業を進めることができるようになり、子どもと良い関係性を築けてくるようになります。そして、三、四年もすると、ある程度、仕事をこなせるようになります。

ここで大きく分けて、二種類の教師に分かれます。

今まで同様、何事にもチャレンジし、自分で成長していこうとする教師。

もう一方は、自分の成長をストップさせている教師。荒れている学年の担任を断ったり、研究授業を拒んだり、校務分掌でまとめ役にならないなど、いろんな場面でも何かを頼まれても断り、楽な方に流れていきます。あの何でもがむしゃらに一生懸命していた初心は、一体、どこにいつてしまっ

たのでしょうか。

私が考える教師力を高めていく教師とは、初心を忘れず、教師の仕事に情熱を持ち続けられることが前提になっていると思います。

先日、永世七冠を達成された羽生善治氏はこうおっしゃっています。

「十年、二十年、三十年、同じ姿勢、同じ情熱を傾けられることが、才能だと思う。」

このように、同じことをし続けたり、情熱を持ち続けることは難しいことなのです。

「燃やし続けるために」

では、どのように情熱の火を保ち続けていけばよいのでしょうか。私なりに心がけていることを書いていきたいと思います。

〈断らない〉

仕事（子どもにとって利益になる事）を頼まれたら、断らないようにしています。何か頼まれたら、「喜んで、させていただきます。」と答えるようにしています。自分ができる、できないじゃなくて、頼まれたら、やるしかないと考えるようにしています。

この十五年程は、高学年を持つ機会に恵

まれています。その高学年は、どちらかと言えば、前年度、クラスが荒れていて、授業が成立しなかった学年が多いです。校長に

「お願いします。」
と頼まれ

「喜んで、担任させていただきます。」

とは、答えるものの毎回、悩みます。学級崩壊しないか？子どもたちに力をつけ、成長させていくことができるだろうか？と不安になります。しかし、自分に起こることは、必ず乗り越えられるものであると思ひ、覚悟を決め、望んでいます。そして、いつも、一生懸命、子どもたちと過ごす中で毎回、学びがあります。

研究授業、学年の主任、校務分掌の長などどんなことでもさせていただと、自分の成長につながっていきます。

(学力研の原稿を書かせていただくこともいろんなことを考えさせていただくものになっています。)

〈読書〉

今の教師は、本を読まなくなった、と言われています。インターネットの普及で昔

と比べると、情報が簡単に手に入るようになりまし。だから、調べたいことがあっても本を読まずに、スマホを使って簡単に、手に入れています。

このような簡単に手に入るHOW TO的なものは、その時には役に立ちます。実際、私もたくさん活用させていただいています。しかし、それは点の活動であり、線の活動になっていません。子どもの成長は、点の活動をつなぎ、線の活動にし、その線をより太くしていくことで大きな成長につながっていくと考えています。

一冊の本には、HOW TO的なもの以外に著者の考え方、思い、伝えたいことなどその教師の教育に対する哲学的な考えが書かれています。それに触れることで、いろんな考え方があることを知り、自分の未熟さに気付かされ、さらに頑張っていくかなければならないという意欲がわいてきます。

読書は教育関係の本だけでなく、いろんなジャンルの本を、読んだ方がいいと思います。(小説、詩、ビジネス書、自己啓発書、伝記、趣味の本など)ちなみに私は、漫画も好きでよく読みます。漫画を読んでいる

と子どもたちと共通の話題ができます。

毎日忙しい中でなかなか、まとまった読書する時間は、とれません。私は、隙間時間を活用することになっています。一日の生活を見直すと、五分や一〇分など意外とあいている時間があります。その時、数ページずつ読む。これを続けています。ちりも積もれば山となる、毎日続けると結構、読めますよ。そして、毎日するので情熱の火も灯し続けることができます。

〈サークル〉

教師力をつけるには、読書でインプットしたことを、アウトプットしていく場が必要です。

サークルは、授業で実践したこと、研究授業の事、毎日の授業の教え方、ノートの取り方、子どもとの関わり方、学年の教師との関わり方、いろんな悩み、相談など、いろんなことを聞いてもらうことができます。そしてアドバイスもいただける。さらに、サークルの方々の話を聞くことで共感したり、新たな刺激もいただける。読書にはない生の声が聞けます。そうすることでさらに情熱の火を燃やすことができます。